

妊娠に関する Utility 測定に関する研究

[目的]

妊娠および分娩の経過中にはさまざまな合併症が出現し、最終的には一部の妊娠で母体あるいは子供の後遺症が発生する。産科臨床の中での的確な判断を行い、患者の満足感を増加させるためには、単に合併症およびその後遺症の発生の危険率を推定するだけでなく、各々の合併症の結果つまり後遺症を患者の立場に立って評価しておくことが重要である。

効用値とは、患者の主観的な価値観すなわち好みに基づいて、疾患の結果として生じた健康障害の程度を数値で評価したものであり、基準として健康を1、死亡を0と定義する。本研究では産科臨床における判断に際して、患者側の満足度を改善することを目的として、妊娠・分娩に関する効用値の測定を試みた。なお妊娠に関する効用値測定上の問題点、注意すべき点に関しては、平成4年度報告書に記載した。

[方法]

平成4年度には医師、看護婦などの専門家、および一般人としての学生を対象として、標準的賭け法または評点尺度法を用いて、アンケート法により効用値を測定した。測定項目は、妊娠・分娩の結果としての妊娠合併症の後遺症、帝王切開を受けた状態、妊孕性の消失など8項目を選択した。回答者には年齢、職業、結婚、子供の有無について質問した。

昨年度の結果は、アンケートを235部配布し回収率は85%とであった。効用値には個人差が大きく、平均値ではなく中央値を比較した(表1)。妊娠合併症の後遺症では(1)腎障害による透析0.9、(2)高血圧による投薬通院0.7、(3)肝炎による入院0.5となった。(4)帝王切開した状態は

0.99と高く、(5)妊娠中の早産予防のための入院は0.8であった。妊孕性の効用値として、分娩時の子宮摘出は(6)生児出産後では0.7、(7)死産後では0.5、(8)卵巣癌による卵巣摘出0.8であった。児の障害では、(9)呼吸障害児1.00、(10)心身障害児0.60、(11)Down症児0.70、また育児中の母親の生活は、(12)正常時の育児0.90、(13)障害児の育児0.50、(14)Down症の育児0.60となった。帝王切開、子宮全摘、卵巣摘出の効用値は、一般人よりも、医師および看護婦の方が高い値を回答した。結論として、育児中の母親の生活が予想外に低く、特に障害児のある場合に低いこと、妊娠・分娩の効用値には個人差が大きく、産科臨床の判断には説明と同意が重要なことが示唆された。

表1. 平成4年度 妊娠に関するUtility
対象は医師、看護婦、学生

項目	最小	第1四分位	中央値	第3四分位	最大
子宮摘出(生産)	0.00	0.50	0.70	0.90	1.00
子宮摘出(死産)	0.00	0.30	0.50	0.80	1.00
卵巣摘出	0.00	0.50	0.80	0.95	1.00
分娩後の透析	0.01	0.70	0.90	0.95	1.00
分娩後の降圧剤	0.09	0.60	0.70	0.80	1.00
分娩後の肝炎	0.05	0.30	0.50	0.70	1.00
帝王切開後	0.00	0.90	0.99	1.00	1.00
切迫早産入院	0.10	0.60	0.80	0.90	1.00
呼吸障害児	0.00	0.90	1.00	1.00	1.00
心身障害児	0.00	0.40	0.60	0.90	1.00
Down症児	0.00	0.50	0.70	0.90	1.00
正常児の育児	0.00	0.80	0.90	1.00	1.10
障害児の育児	0.00	0.40	0.50	0.75	1.00
Down症の育児	0.00	0.40	0.60	0.80	1.00

これらのデータをもとに平成5年度には、次のようなりサーチクエスチョンを設定した。

1. 褥婦、一般女性を対象にした妊娠に関する効用値の測定

2. ハイリスク妊娠における効用値の期待値の低下の程度
3. ハイリスク妊娠において効用値を低下させる主要な妊娠合併症は何か？

平成5年度の測定項目と方法は、次の5項目である。

1. 流産子供のいない生活の効用値
2. 透析妊娠偶発合併症による後遺症の効用値
3. 帝王切開帝王切開した状態の効用値
4. ダウン症児子供自身の生活の効用値
5. 心障児の母親母親の生活の効用値

測定の方法には、1から4は標準的賭け方を、5には評点尺度法を使用して、直接面接しながらアンケートを取る。なお、それぞれのシナリオについては、調査表および調査の手引き書に詳述してある。平成5年度はとくに一般女性を対象にしたため、質問項目を減らし、加来項目の説明を十分に、誤解による回答を避けるようにした。

[結果]

20歳から60歳の女性109名を対象に、面接をしながら調査表に記入をお願いした。有効な回答数は108名で、99.1%が有効であった。このうち、一般女性15名、産褥婦45名、助産婦学生48名であった。産科既往歴では、分娩をしていないもの59名、経陰分娩35名、帝王切開14名であった。また、20代55名、30代41名、40から60歳9名であった。

基本的には平成4年度に、医師、看護婦等の専門職を対象に測定された効用値と、同様の傾向が見られた(表2)。各項目の効用値の平均は、1. 子供のいない生活 0.74、2. 後遺症として透析中 0.77、3. 帝王切開した状態 0.93、4. ダウン症児 0.75、5. 心障児の母親 0.57となった。バラツキの指標としての第1四分位と第3四分位値の差は、1. 0.4、2. 0.35、3. 0、4. 0.2、5. 0.4

であった。効用値に関する意見には、バラツキの多いことが示唆された。

表2. 平成5年度 妊娠に関するUtility
対象は産褥、学生、一般女性

項目	最小	第1四分位	中央値	第3四分位	最大
流産後の生活	0.20	0.50	0.80	0.90	1.00
分娩後の透析	0.20	0.60	0.80	0.95	1.00
帝王切開後	0.40	1.00	1.00	1.00	1.00
ダウン症児	0.10	0.70	0.80	0.90	1.00
心障児の育児	0.00	0.40	0.50	0.80	1.00

測定対象群別に比較すると、40から60歳の群および一般女性の群で、流産して子供のいない状態および心障児の母親の生活に高い傾向が見られた。このうち、流産して子供のいない状態は、一般女性において他の群よりも有意に効用値が高かった。

逆に流産して子供のいない状態は、帝王切開をした群で有意に効用値が低かった。しかしこの相違は有意ではなかった。また帝王切開の効用値は1に近いことが再確認された。

[考察]

昨年度の透析の効用値は、統計処理上の誤りで効用値が低くなり、本年度検討により訂正した。透析の効用値はむしろ妊娠後は高くなり、子供のいる生活の効用値の上昇を反映しているものと推定された。子供のいない生活の効用値は、流産後で中央値0.8と評価されており、逆に言えば、子供のある生活は $1.25 (= 1 \div 0.8)$ と高く評価されたことになる。

昨年度は妊娠に関する効用値に限って検討を加えたが、ここでは面接中の被験者からの質問、面接を実際に行った面接者からの疑問点、結果を分析するうえの問題点を中心に、比較的新しい指標である効用値の問題点について考察する。

1. 効用値測定上の問題点

例えば平均寿命が30年のダウン症児を、50%の死亡率でなおす治療法があり、治療に成功すれば70歳の寿命が得られるとする。この治療法の生存期間の期待値は35年であり、しかも障害の無い生活が出来るのであるから、計算上は治療を選択する方が有利である。しかし、この治療法が選択されることは少ない。この理由としては効用値測定上の問題点が指摘される。

最初は測定に用いられる標準的賭けに伴う問題点である。これには、確実性の効果、危険回避または危険指向の傾向、枠組み効果、得失の価値、時間の効果、そして過程の効果がある。

確実性の効果 certainty effect とは、不確実な状況は、数字の上での期待値が同等であっても、低く評価される傾向があるということである。百万円確実に貰える場合と、二百万円を5割の確率で貰える場合を比較してみると判るであろう。この間は、10年間確実に生きるのと、すぐに死ぬか20年確実に生きる可能性がそれぞれ5割の場合の比較に匹敵し、殆どが前者を選ぶと推定される。

危険回避の傾向とは、上記の不確実性効果で、不確実な状況を低く評価する人は、危険回避の傾向を持つという。数は少ないが賭事は好きで、危険指向の傾向を持つ人も存在する。百万円貰えるか、百万円損をする確立が五分五分のくじを考えると良い。危険を好まない人からすれば、このようなくじを手に入れたいとは思わないだろう。一方賭事が好きで、お金を払ってもこのようなくじを手に入れたい人も居る。

枠組み効果とは、質問の表現により判断が左右されることをいう。くじの場合では第1回目に25%の確率で当たり、第2回目に80%の可能性で百万円あたるというくじは、計算上の期待値が20万円である。しかし、このくじは25%の可能性で70万円当る、期待値が17万5千円のくじより

も、好まれないという。手術を受けるか否かの選択に際して、治療効果を生存率で表現すると、患者の78%が手術を選ぶが、死亡率で表現すると40%しか手術を選択しないとの報告がある。

得失の価値とは、金銭の得失の主観的価値は、現実に所有している金銭の額によって変化する。百万円もっているときに10万円貰うときの喜びは、10万円もっているときに10万円貰う喜びよりも小さい。つまり、今後生存する可能性がある期間の長短により、治療により伸びる生存期間の価値が変化することになる。

時間の効果は、近い未来の生活は高く評価されるということである。10年間確実に生きるのと、すぐに死ぬか20年確実に生きる可能性が5割の場合を比較して、前者を選択する場合に、確実性の効果で説明することも、近未来の効用を高く評価することも説明ができる。

過程の効果とは、同じ後遺症でも効用値が、発生の過程により変動する可能性のあることをいう。自然流産による流産の悲しみと、診断のための羊水穿刺による流産の悲しみでは、後者の方が大きい。この理由として、結果の発生の原因に自己の判断が含まれることがあげられる。また正常虫垂にもかかわらず麻酔のために死亡した場合と、虫垂炎があって麻酔のために死亡した場合では、後者の方が悲しみが小さいとの報告がある。

2. 効用値測定上の心理的問題

効用値を測定する質問する際には、対面調査が最低の必要条件となる。出来れば、二人の調査員がいて、片方は質問に、他方は聞く一方に徹することが出来るとよい。しかし、対面調査の問題点としては、医師が患者に質問するような状況では、当然のこととして患者は医師に遠慮しながら回答することになる。

効用値測定のための標準的賭け法の質問には、日常ではまったく考えたことの無いことを突然聞

かなければならないという問題点がある。まず、人工透析、障害児などは、通常の人にはほとんど縁のない健康状態である。このような状況は明日は我身と考えることの出来る人はほとんどいないであろう。また、死ぬか生きるかという特殊な治療法についても、仮定のものという説明はされているが、普段は聞いたことのない具体性のない治療法である。

このような理解しにくい、具体性のない特殊な質問では、誤解して答えた人と、判って答えた人の区別をすることは、困難である。これらの点からは、果たして効用値を測定するのに、標準的賭け法が本当によいのかを再検討する必要がある。

母親に子供の状態について聞く場合と、母親に母親自身の生活について聞く場合を区別できる人がどのくらいいるのだろうか？ 特に母親の生活は、育児によって大きく影響されることを昨年度の研究でみてきた。個人面接ではこの点を注意するように指摘したが、誤解の発生している可能性がある。

通常の人であれば、自分がどのような人間と評価されるか、という観点から答えてしまうであろう。このような問題に対する自分の本音を回答することよりも、他の人はどのように答えるだろうか？ このような答えをしたら自分はどのように評価されるだろうか？ などの疑問が、答えを決めるときに第一に考えることになると思われる。ダウン症児の評価を、知能が劣る、足手まといであると、ダイレクトに答えたら人非人といわれるのではないかと心配するであろう。このような点を考慮した上で、本音がどのようにしたら出てくかを、工夫する必要がある。上記の諸点を十分に検討しないと、何を測ったのか解らなくなる可能性がある。

効用値に対する判断は、結婚前、妊娠前、子育て中などのその時の状態で大きく変わる可能性が

ある。独身時代であれば、将来の結婚や子供のいる家庭を想定して回答することになる。この想定は、多くの人が結婚や子供を望むことから考えて、理想化される場合が多いと思われる。しかし逆に、一部の慎重な人では、極端に現実的になることもある。一方結婚していれば、多くの時間と費用を必要とする育児の負担を検討しながら、現実的に回答することになる。重要なことは、いずれの回答も真実を含んでいるということである。すなわち、夢を含む推定としての効用値も、現実的な判断としての効用値も、これらが人の行動の基準になり得るという点では、それぞれが正しいということである。ここが、効用値にバラツキの多い原因になる。

子供を持つことの効用値は、現実の母として考える場合と、夢（想像）の中の生活の効用値として考える場合には異なってくる。24から25歳では子供の無い女性と、結婚して35歳になって子供が出来ない女性の、子供のある生活の効用値は大きく異なると思われる。また、Down症児の母は、或る程度心の中で合理化を行って、Down症児を高く評価していると思われる。つまり、人の心は変わるもので、経験によって変わることも多い。生活の質としての効用値は、自分からみる場合と、他人からみる場合では異なり、また夢の生活と現実の生活では異なってくる。しかしいづれもが、主観的な効用値としては、一人の個人の意見としての意味を持っている。このように、心理的な面から、効用値を吟味すると、効用値の質が時間的に変化する可能性が考えられる。

回答者が理想を求めて回答しているか、あるいは現実的な見方から回答しているかを、調査票だけから判断することは困難である。他人の行動をどのように判定するかなどの質問を加えて、総合的に検討する必要がある。しかし、このような質問をすると、一つの効用値を測るのにいくつもの

質問をしなければならないことになる。また、面接では質問者の健康状態に対する評価が入る可能性が高い。調査表では、なるべく具体的な説明を付けたが、質問者が重症の効用値の低い健康状態と想定している場合には、質問の説明などから回答者の評価に影響が出てくることが考えられる。

妊娠に関する効用値の測定は、研究が開始されたばかりであり諸外国においても研究は少ない。最近では、この方法を体外受精治療の有効性の判定に応用した報告がみられる。本研究はこのような具体的な課題に応用が可能と考えられる。

【結 論】

妊娠に関する効用値は子供のいるために複雑になるが、測定に再現性があり産科臨床上の判断に利用可能である。個人差は大きい、子供のいる生活の効用値は、高くなることは明らかであり、この要素を含めた判断が必要になってくる。

妊娠に関する効用値を下げる原因には、新生児の異常がもっとも考えられる。新生児の異常は、頻度が高く、子供の平気寿命の長さから考えて障害の期間が長いこと、母親の生活の効用値の低下にも大きな影響を持つことから、妊娠に関する効用値を大きく低下される要因となる。

効用値を下げる具体的な妊娠合併症には、頻度の高い前期破水、早産が大きな問題になる。高年者では、子宮筋腫の合併の頻度が高くなり、染色体の異常が多くなることもリスク因子となり、これらの疾患に対する対策が必要である。

文 献

- 長谷川敏彦、医療情報の吟味法、実践編、あいみっく 14(3),31-34,1993
- Jarrel, J. F., Labelle, R., Goeree, R., Milner, R., & Collins, J. In vitro fertilization and embryo transfer : a randomized controlled trial. On line journal of current clinical trials, 73, 1993
- Soliman, S., Daya, S., Collins, J., & Jarrel, J. A randomized trial of in vitro fertilization versus conventional treatment for infertility. Fertility and Sterility, 59(6), 1239-1244, 1993

付 録

1. 平成5年度調査表妊娠に関する価値観についてのアンケート調査
2. 調査マニュアルユーティリティ測定アンケートに関するマニュアル
3. 調査結果ハイリスク妊娠研究（1993年度）調査まとめ
4. 論文別冊高年妊娠におけるリスク因子の分析と、安全な分娩に必要な管理基準。社会保険医学雑誌 33、1-4、1993

Utility is the figure evaluating the disturbance of health based on the preference (subjective decision). This value is used to estimate quality of life in the study of medical decision making quantitatively. As the standard of utility, healthy and dead state is defined 1.0 and 0.0 respectively. In the process of pregnancy and delivery, various complications occur and part of these complications remain as the aftereffects. In order to treat these obstetric situations effectively, estimate about risk rate of complications and aftereffects as well as quality of life associated with these aftereffects is important. Even these days study to measure utility of pregnancy is still rare. Methods: Based on the data of 1992 for specialists such as doctors and nurses, more simple inquiry was designed. These study performed for general women, puerperal women and premidwife students, using the individual or group interview method and the inquiry form. Informed consent to answer some ethical question was obtained from each individual by signature. Five items were selected to measure utility. These were childless life after abortion, life of renal dialysis due to pregnancy complication, life after cesarean section, life as a child of Down syndrome, and life as another of mentally and physically handicapped baby. Age, profession and number of children of each examinee were asked as her profile. Results: Averages of utility concerning childless life, dialysis after pregnancy, life after cesarean section, life as a Down syndrome child and maternal life rearing a mentally and physically handicapped child were 0.74, 0.77, 0.93, 0.75 and 0.57, respectively. As the indicator of variation, differences between the values of the first and third quarter were 0.4, 0.35, 0, 0.2 and 0.4. These values were similar to data of doctors and nurses measured last year. Utility of life as a Down child was higher among general women than puerperal women. Utility of childless life is lower among premidwife students than general women. Utility of childless life and dialysis after pregnancy suggests that the increase in utility of life is caused by presence of the child.

ハイリスク妊娠研究 (1993年度) 調査まとめ

項 目	内 容	備 考
I 調査設計	1. 調査対象 2. 対象数 109名 3. 調査方法 4. 調査内容 5. 実施期間 1993.10~1994.1 6. 回収結果 有効数:108名 7. 回答者背景	*一般・褥婦・助産婦学生 *調査項目 (5項目) 流産 腎機能低下 帝王切開 ダウン症 心障児の母
II 基本統計 平均 標準偏差 中央値	1. 全体 2. 対象群別 3. 年齢別 4. 分娩経験と様式別	
III 統計的有為差 2者間の母平均値の差の検定 Welch法	1. 対象群別 2. 職業別	*年齢・分娩有無・分娩様式間では有意差なし
IV 相関係数行列 項目間の相関	1. 全体 2. 対象 3. 年齢 4. 分娩経験 5. 職業	データファイル Uti 1: 生データ uti 2: 修正データ uti 3: ユーティリティ点数化のため流産・腎機能低下・帝王切・ダウン症の数値を逆転。数値は0-1.0で表現
V 箱ヒゲ図	1. 対象 2. 年齢 3. 分娩経験 4. 職業	
VI 統計データ	1. 基本統計量 2. 母平均値の差の検定 3. 相関係数行列	Input 数値と内容 対象 1: 一般 2: 褥婦 3: 助産婦学生 年齢 1: 20-29歳 2: 30-39歳 3: 40-60歳 分娩有無 0: なし 1: 1回 2: 2回 分娩様式 1: 経膈 2: 帝切 職業 1: 主婦 2: 医療食 3: その他 4: 助産婦学生
VII アンケートデータ	1. データファイル名: uti 1 2. " : uti 2 3. " : uti 3	
VIII その他	1. アンケートの感想および意見 2. アンケート 3. アンケート実施協力者	

「妊娠に関するUtility測定に関する研究」

I 調査設計

- 1. 調査対象 20歳～60歳女性（一般女性、褥婦、助産婦学生）
- 2. 対象数 109人
- 3. 調査方法 自記式回答および面接聴取法
- 4. 調査内容 流産
腎機能低下
帝王切開
ダウン症
心障児の母
- 5. 実施期間 1993年10月～1994年1月
- 6. 回収結果 有効回収数 108（99.1%）、無効数 1（0.9%）
- 7. 回答者背景

〈年齢別・分娩構成別回答者数〉

		計	20～29歳	30～39歳	40～60歳	平均年齢
計	人	105	55	41	9	28.9歳
	%	100	52.4	39.0	8.6	
分娩経験と様式	なし	59	51	2	3	24.8歳
		54.6	92.7	4.8	33.3	
	経膣	35	2	29	4	33.8歳
32.4	3.6	70.7	44.4			
帝王切	14	2	10	2	33.1歳	
	13.0	3.6	24.4	22.2		

〈対象別・分娩構成別回答者数〉

		計	一般	褥婦	助学生
計	人	108	15	45	48
	%	100	13.9	41.7	44.4
分娩経験と様式	なし	59	12	0	47
		54.6	80.0	0.0	97.9
	経膣	35	3	32	0
32.4	20.0	71.7	0.0		
帝王切	14	0	13	1	
	13.0	0.0	28.9	2.1	
平均年齢		28.9	35.6	32.7	22.9

II 項目別基本設計

〈全体〉

	全 体			
	平均	標準偏差	中央値	標本
流 産	0.737	0.212	0.80	108
腎 機 能	1.771	0.202	0.80	108
帝 切	0.934	0.168	1.00	108
ダウン症	0.746	0.243	0.80	106
心障児母	0.570	0.260	0.50	107

〈年齢別〉

	20 ~ 29 歳				30 ~ 39 歳				40 ~ 60 歳			
	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本
流 産	0.744	0.213	0.80	55	0.709	0.216	0.70	40	0.85		0.90	9
腎 機 能	0.773	0.207	0.85	55	0.752	0.209	0.75	40	0.86		0.90	9
帝 切	0.909	0.205	1.00	55	0.963	0.091	1.00	40	1.00		1.00	9
ダウン症	0.781	0.242	0.80	55	0.697	0.252	0.75	40	0.81		0.80	9
心障児母	0.553	0.239	0.50	55	0.559	0.260	0.50	40	0.68		0.90	9

〈対象群別〉

	一 般				褥 婦				助 産 婦 学 生			
	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本
流 産	0.881	0.089	0.90	15	0.703	0.211	0.70	45	0.723	0.222	0.70	48
腎 機 能	0.775	0.170	0.80	15	0.763	0.206	0.75	45	0.776	0.208	0.88	48
帝 切	0.980	0.036	1.00	15	0.954	0.120	1.00	45	1.900	0.217	1.00	48
ダウン症	0.835	0.114	0.80	15	0.696	0.245	0.75	45	0.766	0.260	0.80	46
心障児母	0.673	0.295	0.80	15	0.549	0.252	0.50	45	0.556	0.248	0.50	47

〈分娩経験と様式別〉

	分 娩 な し				経 膈 分 娩				帝 王 切 開			
	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本	平均	標準偏差	中央値	標本
流 産	0.748	0.209	0.80	59	0.736	0.202	0.80	35	0.693	0.240	0.60	14
腎 機 能	0.768	0.203	0.80	59	0.760	0.209	0.80	35	0.810	0.180	0.83	14
帝 切	0.913	0.199	1.00	59	0.966	0.107	1.00	35	1.939	0.134	1.00	14
ダウン症	0.773	0.237	0.80	57	0.703	0.246	0.75	35	0.743	0.243	0.80	14
心障児母	0.559	0.254	0.50	58	0.601	0.281	0.60	35	0.536	0.222	0.50	14

Ⅲ 統計的有為差 (2者間の母平均値の差の検定、Welchの方法)

〈対象群別〉

	一般女性	褥 婦	助産婦学生
一般女性		ダウン症 0.54%	流産 0.03% 帝王切開 1.86%
褥 婦			
助産婦学生			

〈ダウン症〉
一般女性と褥婦 p < 0.01

〈流産〉
一般女性と助産婦学生 p < 0.01

〈帝王切開〉
一般女性と助産婦学生 p < 0.05

〈職業別〉

	主婦	医療職	その他	助産婦学生
主 婦			流産 4.80% ダウン症 0.84%	
医 療 職				
そ の 他				
助産婦学生				

〈流産〉
主婦とその他 p < 0.05

〈ダウン症〉
主婦とその他 p < 0.01

*年齢別、分娩有無別、分娩様式別の群間では有意差はみられず。

IV 相関係数行列と無相関の検定

〈全体〉	腎機能低下	—	ダウン症	0.423	*
〈対象群別〉					
一般女性：	流産	—	腎機能低下	0.438	*
	腎機能低下	—	ダウン症	0.405	*
	帝王切開	—	ダウン症	0.466	*
	ダウン症	—	心障児の母	0.491	*
褥 婦：	腎機能低下	—	ダウン症	0.417	*
助産婦学生：	腎機能低下	—	ダウン症	0.516	*
〈年齢別〉					
20～29歳：	腎機能低下	—	ダウン症	0.504	*
40～60歳：	流産	—	腎機能低下	0.604	*
	流産	—	ダウン症	0.623	*
	腎機能低下	—	ダウン症	0.641	*
	腎機能低下	—	心障児の母	0.406	*
〈分娩経験別〉					
経験なし：	腎機能低下	—	ダウン症	0.484	*
分娩1回：	腎機能低下	—	ダウン症	0.488	*
分娩2回：	流産	—	腎機能低下	0.542	*
	流産	—	帝王切開	0.430	*
	流産	—	ダウン症	0.677	*
	ダウン症	—	心障児の母	0.414	*
〈職業別〉					
医 療 職：	流産	—	腎機能低下	0.948	**
	流産	—	ダウン症	0.549	*
	腎機能低下	—	ダウン症	0.760	**
	ダウン症	—	心障児の母	0.796	**
そ の 他：	流産	—	帝王切開	0.428	*
	ダウン症	—	心障児の母	0.546	*
助産婦学生：	腎機能低下	—	ダウン症	0.516	*

* 0.4～0.7：かなり相関がある

** 0.7～1.0：強い相関がある

[箱ヒゲ図作成のための5数要約値など]

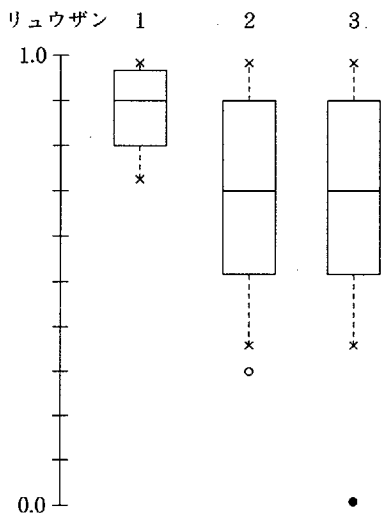
階層別変数名：タイショウゲン 層の個数：3

- 1) 1.000 - 1.000
- 2) 2.000 - 2.000
- 3) 3.000 - 3.000

層別変数名

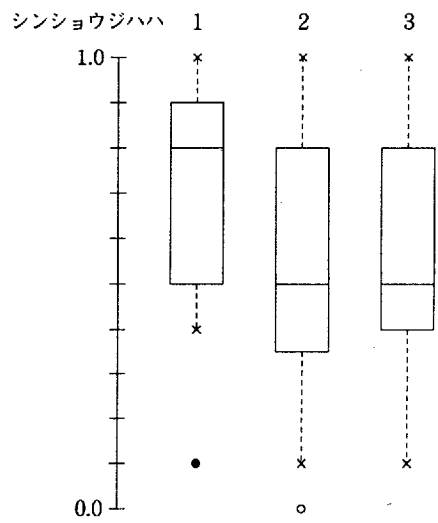
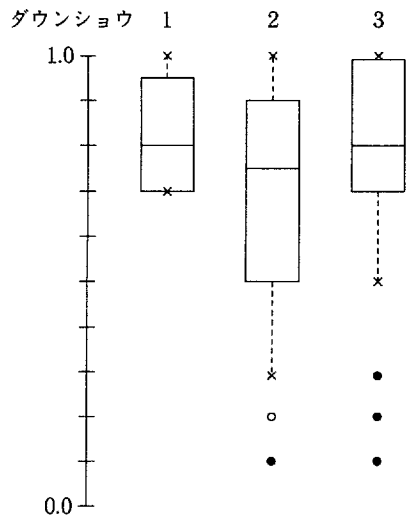
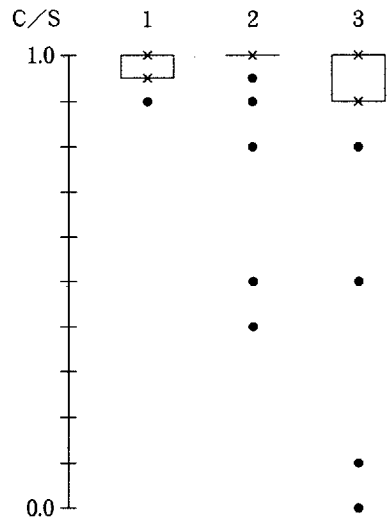
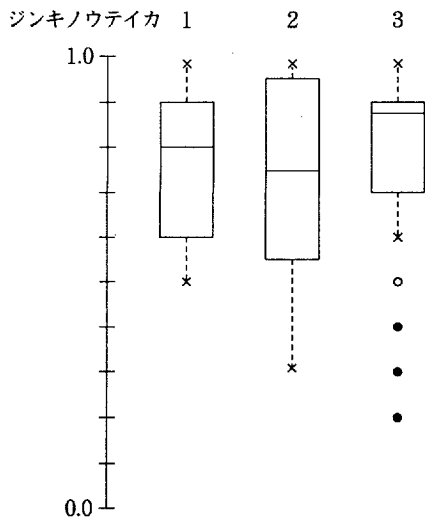
- 1) 一般女性
- 2) 産褥婦
- 3) 助産婦学生

変数名	最小値	第1四分位	中央値	第3四分位	最大値	四分位偏差	標本
リュウザン							
1)	0.70	0.800	0.90	0.970	1.00	0.085	15
2)	0.20	0.500	0.70	0.900	1.00	0.200	45
3)	0.00	0.500	0.70	0.900	1.00	0.200	48
ジンキノウテイカ							
1)	0.40	0.600	0.80	0.900	1.00	0.150	15
2)	0.30	0.550	0.75	0.950	1.00	0.200	45
3)	0.20	0.700	0.88	0.900	1.00	0.100	48
C/S							
1)	0.90	0.950	1.00	1.000	1.00	0.025	15
2)	0.40	1.000	1.00	1.000	1.00	0.000	45
3)	0.00	0.900	1.00	1.000	1.00	0.050	48
ダウンショウ							
1)	0.70	0.700	0.80	0.950	1.00	0.125	15
2)	0.10	0.500	0.75	0.900	1.00	0.200	45
3)	0.01	0.700	0.80	0.990	1.00	0.145	46
シンショウジハハ							
1)	0.10	0.500	0.80	0.900	1.00	0.200	15
2)	0.00	0.350	0.50	0.800	1.00	0.225	45
3)	0.10	0.400	0.50	0.800	1.00	0.200	47



箱ヒゲ図

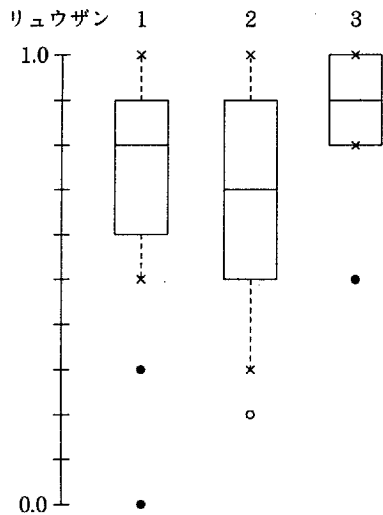
- 箱の下辺：第1四分位
- 箱の上辺：第3四分位
- 四分位偏差：第1四分位と第3四分位の幅の2分の1
- ヒゲの長さ：四分位偏差の1.5倍またはその範囲の最外側の例
- 白丸：四分位偏差の2倍以内の例
- 黒丸：四分位偏差の2倍を越す例

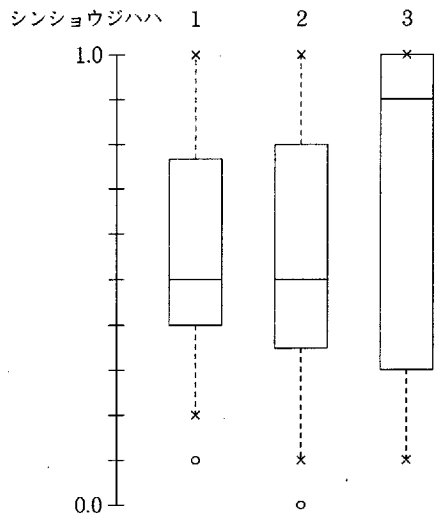
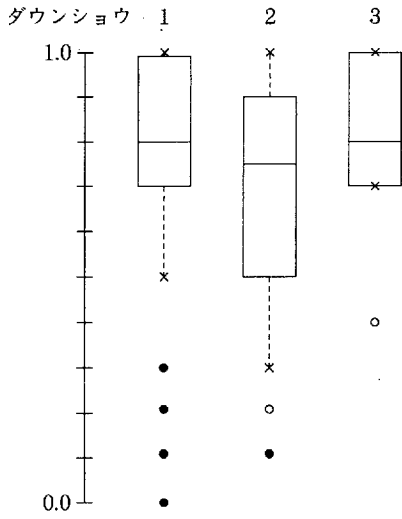
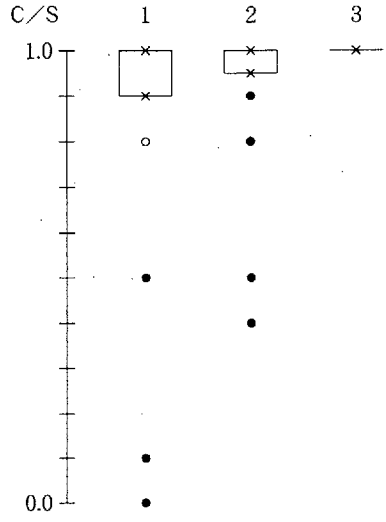
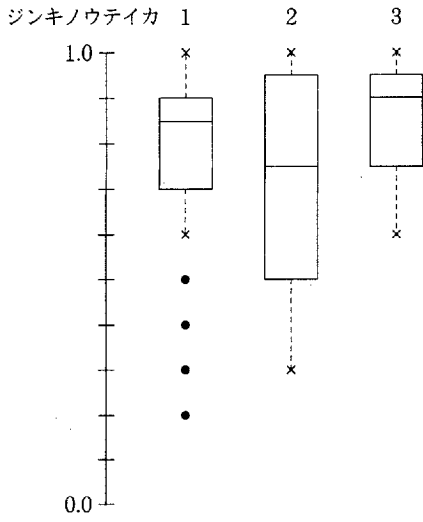


[箱ヒゲ図作成のための5数要約値など]

階層別変数名: Age 層の個数: 3
 1) 20.000 - 29.000 年齢
 2) 30.000 - 39.000
 3) 40.000 - 60.000

変数名	最小値	第1四分位	中央値	第3四分位	最大値	四分位偏差	標本
リュウザン							
1)	0.00	0.600	0.80	0.900	1.00	0.150	55
2)	0.20	0.500	0.70	0.900	1.00	0.200	41
3)	0.50	0.800	0.90	0.995	1.00	0.098	9
ジンキノウテイカ							
1)	0.20	0.700	0.85	0.900	1.00	0.100	55
2)	0.30	0.500	0.75	0.950	1.00	0.225	41
3)	0.60	0.750	0.90	0.950	1.00	0.100	9
C/S							
1)	0.00	0.900	1.00	1.000	1.00	0.050	55
2)	0.40	0.950	1.00	1.000	1.00	0.025	41
3)	1.00	1.000	1.00	1.000	1.00	0.000	9
ダウンショウ							
1)	0.01	0.700	0.80	0.985	1.00	0.143	53
2)	0.10	0.500	0.75	0.900	1.00	0.200	41
3)	0.40	0.700	0.80	1.000	1.00	0.150	9
シンショウジハハ							
1)	0.10	0.400	0.50	0.763	1.00	0.181	54
2)	0.00	0.350	0.50	0.800	1.00	0.225	41
3)	0.10	0.300	0.90	1.000	1.00	0.350	9

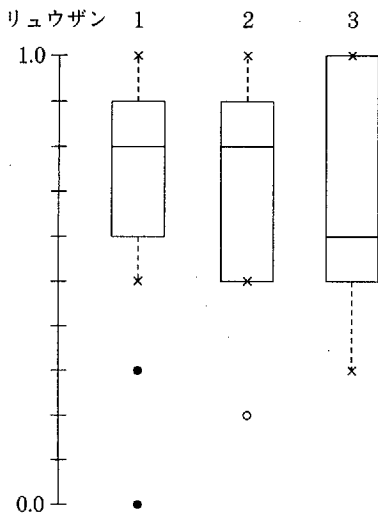


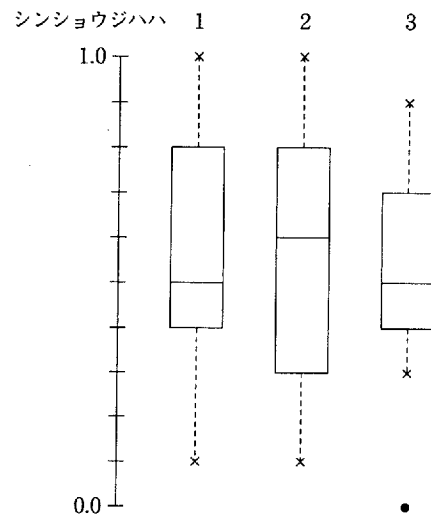
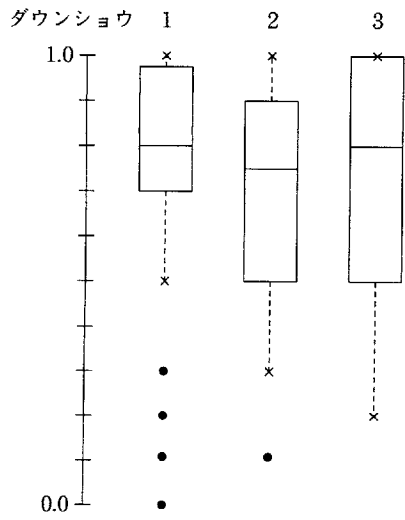
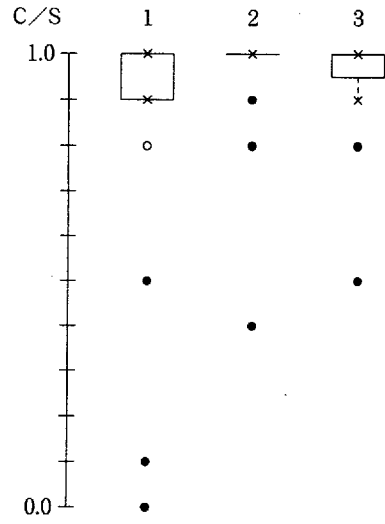
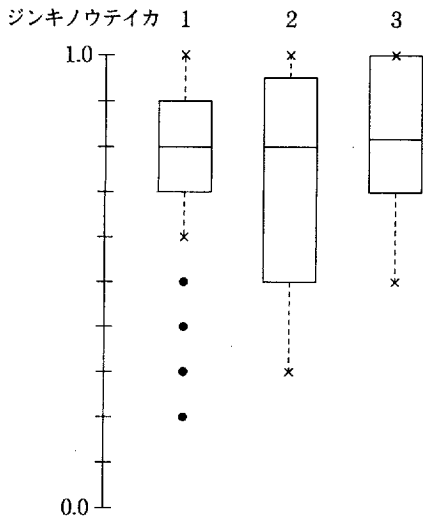


[箱ヒゲ図作成のための5数要約値など]

階層別変数名：ブンベン 層の個数：3
 1) 0.000 - 0.000 分娩回数
 2) 1.000 - 1.000
 3) 2.000 - 2.000

変数名	最小値	第1四分位	中央値	第3四分位	最大値	四分位偏差	標本
リュウザン							
1)	0.00	0.600	0.80	0.900	1.00	0.150	59
2)	0.20	0.500	0.80	0.900	1.00	0.200	35
3)	0.30	0.500	0.60	1.000	1.00	0.250	14
ジンキノウテイカ							
1)	0.20	0.700	0.80	0.900	1.00	0.100	59
2)	0.30	0.500	0.80	0.950	1.00	0.225	35
3)	0.50	0.675	0.83	1.000	1.00	0.163	14
C/S							
1)	0.00	0.900	1.00	1.000	1.00	0.050	59
2)	0.40	1.000	1.00	1.000	1.00	0.000	35
3)	0.50	0.938	1.00	1.000	1.00	0.031	14
ダウンショウ							
1)	0.01	0.700	0.80	0.975	1.00	0.138	57
2)	0.10	0.500	0.75	0.900	1.00	0.200	35
3)	0.20	0.500	0.80	1.000	1.00	0.250	14
シンショウジノハ							
1)	0.10	0.400	0.50	0.800	1.00	0.200	58
2)	0.10	0.300	0.60	0.800	1.00	0.250	35
3)	0.00	0.400	0.50	0.725	0.900	0.163	14





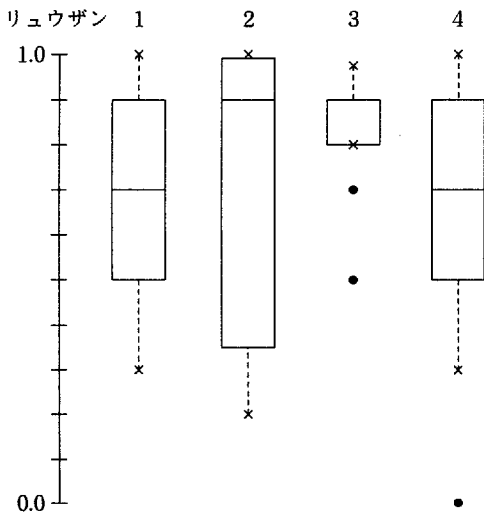
[箱ヒゲ図作成のための5数要約値など]

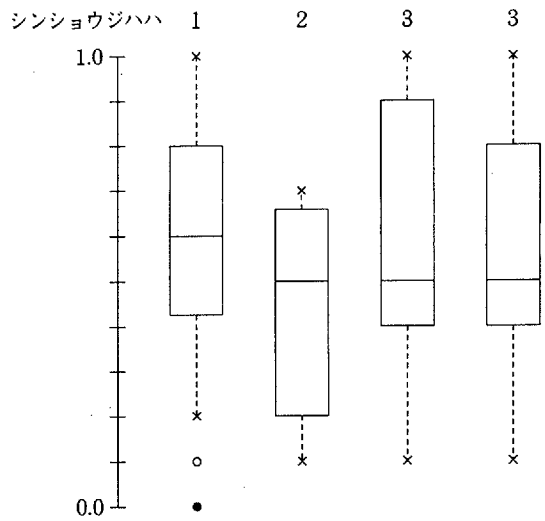
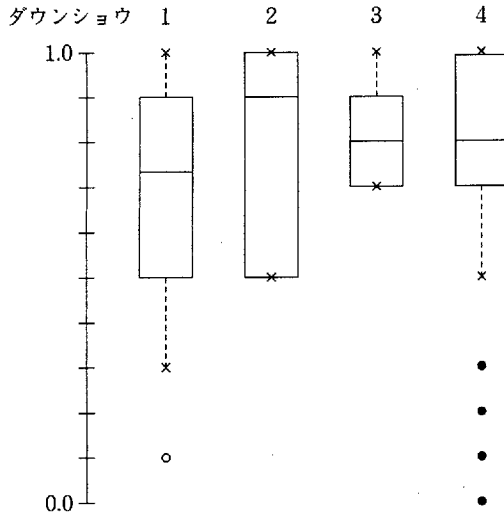
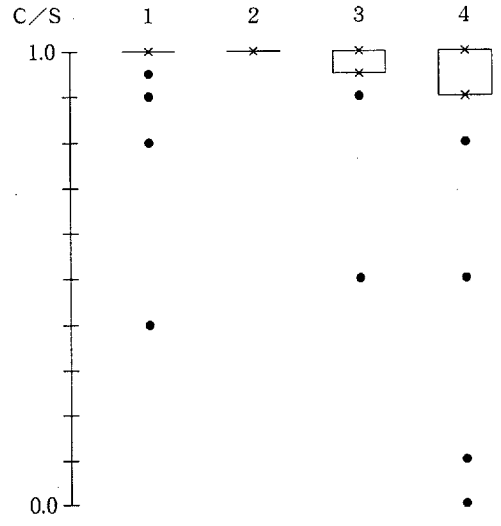
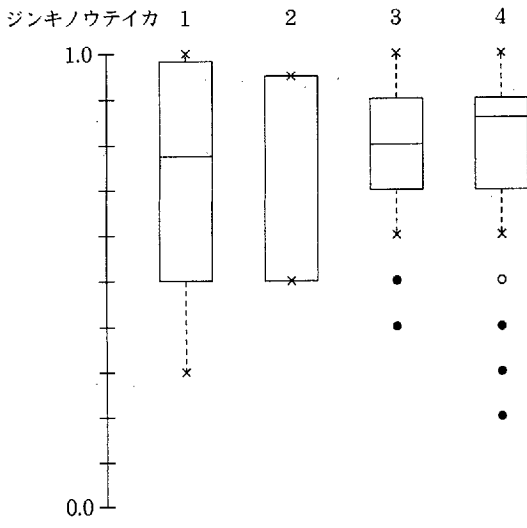
階層別変数名：ショックギョウ 層の個数：4

- 1) 1.000 - 1.000
- 2) 2.000 - 2.000
- 3) 3.000 - 3.000
- 4) 4.000 - 4.000

- 1) 主婦
- 2) 医療職
- 3) その他
- 4) 助産婦学生

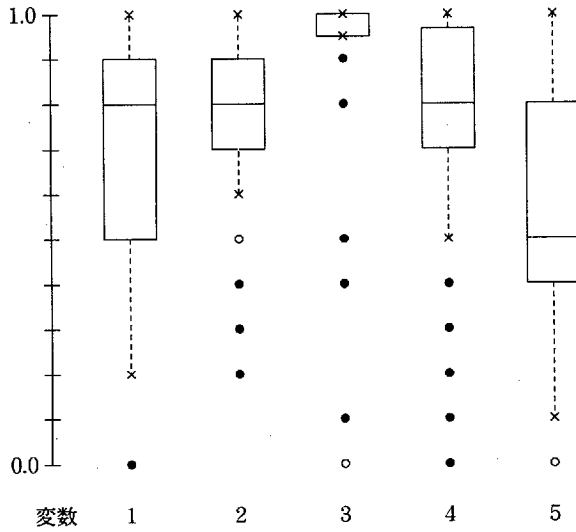
変数名	最小値	第1四分位	中央値	第3四分位	最大値	四分位偏差	標本
リュウザン							
1)	0.30	0.500	0.70	0.900	1.00	0.200	32
2)	0.20	0.350	0.90	0.980	0.99	0.315	5
3)	0.50	0.800	0.80	0.900	1.00	0.050	23
4)	0.00	0.500	0.70	0.900	1.00	0.200	48
ジンキノウテイカ							
1)	0.30	0.500	0.78	0.980	1.00	0.240	32
2)	0.50	0.500	0.95	0.950	0.95	0.225	5
3)	0.40	0.700	0.80	0.900	1.00	0.100	23
4)	0.20	0.700	0.88	0.900	1.00	0.100	48
C/S							
1)	0.40	1.000	1.00	1.000	1.00	0.000	32
2)	1.00	1.000	1.00	1.000	1.00	0.000	5
3)	0.50	0.950	1.00	1.000	1.00	0.025	23
4)	0.00	0.900	1.00	1.000	1.00	0.050	48
ダウンショウ							
1)	0.10	0.500	0.73	0.900	1.00	0.200	32
2)	0.50	0.500	0.90	1.000	1.00	0.250	5
3)	0.70	0.700	0.80	0.900	1.00	0.100	23
4)	0.01	0.700	0.80	0.990	1.00	0.145	46
シンショウジハハ							
1)	0.00	0.425	0.60	0.800	1.00	0.188	32
2)	0.10	0.200	0.50	0.650	0.70	0.225	5
3)	0.10	0.400	0.50	0.900	1.00	0.250	23
4)	0.10	0.400	0.50	0.800	1.00	0.200	47





[箱ヒゲ図作成のための5数要約値など]

変数名	最小値	第1四分位	中央値	第3四分位	最大値	四分位偏差	標本
リュウザン	0.00	0.500	0.80	0.900	1.00	0.200	108
ジンキノウテイカ	0.20	0.700	0.80	0.900	1.00	0.100	108
C/S	0.00	0.950	1.00	1.000	1.00	0.025	08
ダウンショウ	0.01	0.700	0.80	0.970	1.00	0.135	106
シンショウジハハ	0.00	0.400	0.50	0.800	1.00	0.200	107



[基本統計量]

変数名	リュウザン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.737	0.771	0.934
分散	0.045	0.041	0.028
標準偏差	0.212	0.202	0.168
変動係数	28.801	26.261	17.963
最小値	0.000	0.200	0.000
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	1.000	0.800	1.000
歪度	-0.644	-0.862	-3.655
尖度	-0.084	-0.199	14.189
有効標本数	108	108	108
無効標本数	1	1	1

[基本統計量]

変数名	ダウンショウ	シンショウジハハ	Age
平均値	0.746	0.570	31.648
分散	0.059	0.068	856.171
標準偏差	0.243	0.260	29.260
変動係数	32.549	45.709	92.457
最小値	0.000	0.000	21.000
最大値	1.000	1.000	319.000
範囲	1.000	1.000	298.000
歪度	-1.165	-0.054	9.027
尖度	0.992	-0.827	85.606
有効標本数	106	107	105
無効標本数	3	2	4

[基本統計量]

変数名	ブンベン	ショクキョウ
平均値	0.583	2.806
分散	0.502	1.638
標準偏差	0.709	1.280
変動係数	121.499	45.620
最小値	0.000	1.000
最大値	2.000	4.000
範囲	2.000	3.000
歪度	0.797	-0.481
尖度	-0.641	-1.482
有効標本数	108	108
無効標本数	1	1

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
タイショウクワン		(1.000 - 1.000)	
変数名	リュウザン	ジンキノウテイカ	C/S
平均値	0.881	0.775	0.980
分散	0.008	0.029	0.001
標準偏差	0.089	0.170	0.036
変動係数	10.152	21.977	3.632
最小値	0.700	0.400	0.900
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.300	0.600	0.100
歪度	-0.256	-0.810	-1.464
尖度	-1.004	-0.497	0.544
有効標本数	15	15	15
無効標本数	94	94	94

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
タイショウクワン		(1.000 - 1.000)	
変数名	ダウンショウ	シンショウジハハ	
平均値	0.835	0.673	
分散	0.013	0.087	
標準偏差	0.114	0.295	
変動係数	13.655	43.794	
最小値	0.700	0.100	
最大値	1.000	1.000	
範囲	0.300	0.900	
歪度	0.193	-0.735	
尖度	-1.477	-0.694	
有効標本数	15	15	
無効標本数	94	94	

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 タイショウケン (2.000 - 2.000)

変数名	リュウザン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.703	0.763	0.954
分散	0.045	0.042	0.014
標準偏差	0.211	0.206	0.120
変動係数	30.016	27.014	12.584
最小値	0.200	0.300	0.400
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.800	0.700	0.600
歪度	-0.241	-0.447	-3.453
尖度	-1.031	-1.042	11.790
有効標本数	45	45	45
無効標本数	64	64	64

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 タイショウケン (2.000 - 2.000)

変数名	タクウンショウ	シンショウジハハ
平均値	0.696	0.549
分散	0.060	0.064
標準偏差	0.245	0.252
変動係数	35.159	45.989
最小値	0.000	0.000
最大値	1.000	1.000
範囲	1.000	1.000
歪度	-0.850	-0.105
尖度	0.358	-0.694
有効標本数	45	45
無効標本数	64	64

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
タイショウゲン		(3.000 - 3.000)	
変数名	リュウサン	ジノキノウテイカ	C/S
平均値	0.723	0.776	0.900
分散	0.049	0.043	0.047
標準偏差	0.222	0.208	0.217
変動係数	30.712	26.757	24.132
最小値	0.000	0.200	0.000
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	1.000	0.800	1.000
歪度	-0.679	-1.241	-2.859
尖度	0.353	0.621	7.727
有効標本数	48	48	48
無効標本数	61	61	61

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
タイショウゲン		(3.000 - 3.000)	
変数名	ダウシヨウ	シンシヨウジハハ	
平均値	0.766	0.556	
分散	0.068	0.062	
標準偏差	0.260	0.248	
変動係数	33.951	44.592	
最小値	0.010	0.100	
最大値	1.000	1.000	
範囲	0.990	0.900	
歪度	-1.299	0.178	
尖度	0.979	-0.715	
有効標本数	46	47	
無効標本数	63	62	

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲		
Age		(0.000 - 40.000)		
変数名	リュウザン	ジキノウテイカ	C/S	
平均値	0.731	0.767	0.934	
分散	0.046	0.043	0.028	
標準偏差	0.214	0.207	0.167	
変動係数	29.351	27.060	17.838	
最小値	0.000	0.200	0.000	
最大値	1.000	1.000	1.000	
範囲	1.000	0.800	1.000	
歪度	-0.632	-0.825	-3.782	
尖度	-0.096	-0.321	15.400	
有効標本数	98	98	98	
無効標本数	11	11	11	

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲		
Age		(0.000 - 40.000)		
変数名	ダウンショウ	シンショウツバハ		
平均値	0.745	0.560		
分散	0.063	0.062		
標準偏差	0.250	0.248		
変動係数	33.588	44.366		
最小値	0.000	0.000		
最大値	1.000	1.000		
範囲	1.000	1.000		
歪度	-1.172	-0.008		
尖度	0.855	-0.696		
有効標本数	96	97		
無効標本数	13	12		

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
Age (20.000 - 29.000)

変数名	リュウサン	ジ`ンキノウテイカ	C/S
平均値	0.744	0.773	0.909
分散	0.045	0.043	0.042
標準偏差	0.213	0.207	0.205
変動係数	28.654	26.763	22.542
最小値	0.000	0.200	0.000
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲度	1.000	0.800	1.000
歪度	-0.884	-1.150	-3.093
尖度	0.799	0.388	9.354
有効標本数	55	55	55
無効標本数	54	54	54

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
Age (20.000 - 29.000)

変数名	ダ`ウンショウ	シンショウツ`ハハ
平均値	0.781	0.553
分散	0.059	0.057
標準偏差	0.242	0.239
変動係数	31.012	43.184
最小値	0.010	0.100
最大値	1.000	1.000
範囲度	0.990	0.900
歪度	-1.543	0.119
尖度	1.932	-0.690
有効標本数	53	54
無効標本数	56	55

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
Age		(30.000 - 39.000)	
変数名	リュウサン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.709	0.752	0.963
分散	0.047	0.044	0.008
標準偏差	0.216	0.209	0.091
変動係数	30.450	27.804	9.419
最小値	0.200	0.300	0.500
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.800	0.700	0.500
歪度	-0.294	-0.393	-3.595
尖度	-1.016	-1.116	14.501
有効標本数	40	40	40
無効標本数	69	69	69

[基本統計量]

制御変数名		選択範囲	
Age		(30.000 - 39.000)	
変数名	タウンショウ	シンショウジハハ	
平均値	0.697	0.559	
分散	0.064	0.068	
標準偏差	0.252	0.260	
変動係数	36.184	46.536	
最小値	0.000	0.000	
最大値	1.000	1.000	
範囲	1.000	1.000	
歪度	-0.857	-0.158	
尖度	0.303	-0.764	
有効標本数	40	40	
無効標本数	69	69	

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ブンベン (0.000 - 0.000)

変数名	リュウサン	ジノキノウテイカ	C/S
平均値	0.748	0.768	0.913
分散	0.044	0.041	0.039
標準偏差	0.209	0.203	0.199
変動係数	28.005	26.389	21.745
最小値	0.000	0.200	0.000
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	1.000	0.800	1.000
歪度	-0.924	-1.116	-3.229
尖度	0.886	0.346	10.329
有効標本数	59	59	59
無効標本数	50	50	50

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ブンベン (0.000 - 0.000)

変数名	ダウシヨウ	シンシヨウシハハ
平均値	0.773	0.559
分散	0.056	0.064
標準偏差	0.237	0.254
変動係数	30.681	45.431
最小値	0.010	0.100
最大値	1.000	1.000
範囲	0.990	0.900
歪度	-1.456	0.027
尖度	1.820	-0.796
有効標本数	57	58
無効標本数	52	51

[基本統計量]

制御変数名 ブソヘソ		選択範囲 (1.000 - 1.000)	
変数名	リュウサソ	シソキノウテイカ	C/S
平均値	0.736	0.760	0.966
分散	0.041	0.044	0.011
標準偏差	0.202	0.209	0.107
変動係数	27.488	27.456	11.054
最小値	0.200	0.300	0.400
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.800	0.700	0.600
歪度	-0.552	-0.542	-4.358
尖度	-0.580	-0.974	19.724
有効標本数	35	35	35
無効標本数	74	74	74

[基本統計量]

制御変数名 ブソヘソ		選択範囲 (1.000 - 1.000)	
変数名	タソウンシヨウ	シンシヨウシソハハ	
平均値	0.703	0.601	
分散	0.060	0.079	
標準偏差	0.246	0.281	
変動係数	34.905	46.754	
最小値	0.000	0.100	
最大値	1.000	1.000	
範囲	1.000	0.900	
歪度	-0.935	-0.150	
尖度	0.724	-1.152	
有効標本数	35	35	
無効標本数	74	74	

[基本統計量]

制御変数名 ブンペン		選択範囲 (2.000 - 2.000)	
変数名	リュウザン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.693	0.810	0.939
分散	0.058	0.032	0.018
標準偏差	0.240	0.180	0.134
変動係数	34.701	22.188	14.252
最小値	0.300	0.500	0.500
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.700	0.500	0.500
歪度	0.115	-0.444	-2.539
尖度	-1.510	-1.152	5.397
有効標本数	14	14	14
無効標本数	95	95	95

[基本統計量]

制御変数名 ブンペン		選択範囲 (2.000 - 2.000)	
変数名	ダウンショウ	シンショウジ ^ハ	
平均値	0.743	0.536	
分散	0.059	0.049	
標準偏差	0.243	0.222	
変動係数	32.763	41.505	
最小値	0.200	0.000	
最大値	1.000	0.900	
範囲	0.800	0.900	
歪度	-0.775	-0.531	
尖度	-0.440	0.339	
有効標本数	14	14	
無効標本数	95	95	

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (1.000 - 1.000)

変数名	リュウザン	ジノキノウテイカ	C/S
平均値	0.709	0.747	0.958
分散	0.039	0.048	0.013
標準偏差	0.198	0.218	0.114
変動係数	27.946	29.238	11.897
最小値	0.300	0.300	0.400
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.700	0.700	0.600
歪度	-0.085	-0.337	-3.804
尖度	-1.236	-1.221	15.192
有効標本数	32	32	32
無効標本数	77	77	77

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (1.000 - 1.000)

変数名	タウンショウ	シンショウジハハ
平均値	0.688	0.578
分散	0.057	0.063
標準偏差	0.240	0.251
変動係数	34.808	43.348
最小値	0.100	0.000
最大値	1.000	1.000
範囲	0.900	1.000
歪度	-0.547	-0.360
尖度	-0.388	-0.473
有効標本数	32	32
無効標本数	77	77

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (3.000 - 3.000)

変数名	リュウサン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.809	0.792	0.957
分散	0.026	0.024	0.011
標準偏差	0.161	0.155	0.105
変動係数	19.888	19.574	10.933
最小値	0.500	0.400	0.500
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	0.500	0.600	0.500
歪度	-0.920	-0.755	-3.595
尖度	-0.285	0.046	12.827
有効標本数	23	23	23
無効標本数	86	86	86

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (3.000 - 3.000)

変数名	ダウシヨウ	シンシヨウジハハ
平均値	0.823	0.613
分散	0.012	0.086
標準偏差	0.110	0.293
変動係数	13.326	47.874
最小値	0.700	0.100
最大値	1.000	1.000
範囲	0.300	0.900
歪度	0.428	-0.212
尖度	-1.261	-1.263
有効標本数	23	23
無効標本数	86	86

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (4.000 - 4.000)

変数名	リュウサン	シンキノウテイカ	C/S
平均値	0.723	0.776	0.900
分散	0.049	0.043	0.047
標準偏差	0.222	0.208	0.217
変動係数	30.712	26.757	24.132
最小値	0.000	0.200	0.000
最大値	1.000	1.000	1.000
範囲	1.000	0.800	1.000
歪度	-0.679	-1.241	-2.859
尖度	0.353	0.621	7.727
有効標本数	48	48	48
無効標本数	61	61	61

[基本統計量]

制御変数名 (選択範囲)
 ショクキョウ (4.000 - 4.000)

変数名	ダウンショウ	シンショウジハハ
平均値	0.766	0.556
分散	0.068	0.062
標準偏差	0.260	0.248
変動係数	33.951	44.592
最小値	0.010	0.100
最大値	1.000	1.000
範囲	0.990	0.900
歪度	-1.299	0.178
尖度	0.979	-0.715
有効標本数	46	47
無効標本数	63	62

- 1) 一般女性
- 2) 産褥婦
- 3) 助産婦学生

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

群変数名：タイショウケン

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不偏 標準偏差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検定
リュウザン	60	0.748	0.205	5.323	3.107	4.456
1 (1.0 - 1.0)	15	0.881	0.093	(44, 14)	(58)	(54.44)
2 (2.0 - 2.0)	45	0.703	0.213	(0.0015)	(0.0029)	(0.0000)
ジノキノウテイカ	60	0.766	0.200	1.400	0.193	0.210
1 (1.0 - 1.0)	15	0.775	0.176	(44, 14)	(58)	(28.20)
2 (2.0 - 2.0)	45	0.763	0.208	(0.5035)	(0.8479)	(0.8354)
C/S	60	0.961	0.107	10.870	0.799	1.249
1 (1.0 - 1.0)	15	0.980	0.037	(44, 14)	(58)	(58.86)
2 (2.0 - 2.0)	45	0.954	0.121	(0.0000)	(0.4278)	(0.2165)
ダウンショウ	60	0.731	0.230	4.393	2.094	2.911
1 (1.0 - 1.0)	15	0.835	0.118	(44, 14)	(58)	(51.00)
2 (2.0 - 2.0)	45	0.696	0.247	(0.0043)	(0.0407)	(0.0054)
シンショウツハハ	60	0.580	0.271	1.430	1.556	1.422
1 (1.0 - 1.0)	15	0.673	0.305	(44, 44)	(58)	(20.94)
2 (2.0 - 2.0)	45	0.549	0.255	(0.3603)	(0.1251)	(0.1705)

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

群変数名：タイショウケン

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不偏 標準偏差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検定
リュウザン	63	0.761	0.211	5.885	2.633	3.908
1 (1.0 - 1.0)	15	0.881	0.093	(47, 14)	(61)	(56.81)
2 (3.0 - 3.0)	48	0.723	0.225	(0.0008)	(0.0107)	(0.0003)
ジノキノウテイカ	63	0.776	0.201	1.420	0.030	0.033
1 (1.0 - 1.0)	15	0.775	0.176	(47, 14)	(61)	(27.59)
2 (3.0 - 3.0)	48	0.776	0.210	(0.4828)	(0.9763)	(0.9741)
C/S	63	0.919	0.195	35.480	1.402	2.425
1 (1.0 - 1.0)	15	0.980	0.037	(47, 14)	(61)	(55.50)
2 (3.0 - 3.0)	48	0.900	0.219	(0.0000)	(0.1660)	(0.0186)
ダウンショウ	61	0.783	0.237	4.958	0.987	1.409
1 (1.0 - 1.0)	15	0.835	0.118	(45, 14)	(59)	(53.39)
2 (3.0 - 3.0)	46	0.766	0.263	(0.0022)	(0.3276)	(0.1648)
シンショウツハハ	62	0.585	0.267	1.481	1.491	1.346
1 (1.0 - 1.0)	15	0.673	0.305	(14, 46)	(60)	(20.40)
2 (3.0 - 3.0)	47	0.556	0.251	(0.3131)	(0.1412)	(0.1934)

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

群変数名：タイショウケン

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不 標準 偏差	偏 差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検 定
リュウザン	93	0.714	0.218		1.106	0.440	0.440
1 (2.0 - 2.0)	45	0.703	0.213	(47, 44)	(91)	(91.94)	
2 (3.0 - 3.0)	48	0.723	0.225	(0.7388)	(0.6613)	(0.6607)	
ンキノウテイカ	93	0.770	0.208		1.014	0.307	0.307
1 (2.0 - 2.0)	45	0.763	0.208	(47, 44)	(91)	(91.57)	
2 (3.0 - 3.0)	48	0.776	0.210	(0.9647)	(0.7592)	(0.7592)	
C/S	93	0.926	0.180		3.264	1.472	1.498
1 (2.0 - 2.0)	45	0.954	0.121	(47, 44)	(91)	(75.68)	
2 (3.0 - 3.0)	48	0.900	0.219	(0.0001)	(0.1444)	(0.1383)	
タウシヨウ	91	0.731	0.256		1.129	1.305	1.306
1 (2.0 - 2.0)	45	0.696	0.247	(45, 44)	(89)	(89.93)	
2 (3.0 - 3.0)	46	0.766	0.263	(0.6894)	(0.1953)	(0.1950)	
シンシヨウジ ^o ハハ	92	0.553	0.252		1.036	0.142	0.142
1 (2.0 - 2.0)	45	0.549	0.255	(44, 46)	(90)	(90.52)	
2 (3.0 - 3.0)	47	0.556	0.251	(0.9039)	(0.8874)	(0.8874)	

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

- 1) 主婦
- 2) 医療職
- 3) その他
- 4) 助産婦学生

群変数名：シヨクキョウ

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不 標準	偏 偏差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検定
リュウサン	55	0.751	0.192		1.497	1.958	2.024
1 (1.0 - 1.0)	32	0.709	0.201	(31, 22)	(53)	(53.32)	
2 (3.0 - 3.0)	23	0.809	0.165	(0.3286)	(0.0555)	(0.0480)	
シノキノウテイカ	55	0.766	0.197		1.957	0.843	0.889
1 (1.0 - 1.0)	32	0.747	0.222	(31, 22)	(53)	(53.98)	
2 (3.0 - 3.0)	23	0.792	0.159	(0.1055)	(0.4032)	(0.3778)	
C/S	55	0.957	0.111		1.172	0.042	0.043
1 (1.0 - 1.0)	32	0.958	0.116	(31, 22)	(53)	(51.15)	
2 (3.0 - 3.0)	23	0.957	0.107	(0.7074)	(0.9666)	(0.9661)	
タウンシヨウ	55	0.745	0.209		4.709	2.472	2.755
1 (1.0 - 1.0)	32	0.688	0.243	(31, 22)	(53)	(46.55)	
2 (3.0 - 3.0)	23	0.823	0.112	(0.0004)	(0.0167)	(0.0084)	
シンシヨウツヅハハ	55	0.593	0.272		1.389	0.466	0.453
1 (1.0 - 1.0)	32	0.578	0.255	(22, 31)	(53)	(44.18)	
2 (3.0 - 3.0)	23	0.613	0.300	(0.3931)	(0.6435)	(0.6528)	

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

群変数名：シヨクキョウ

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不 標準	偏 偏差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検定
リュウサン	80	0.718	0.214		1.244	0.290	0.296
1 (1.0 - 1.0)	32	0.709	0.201	(47, 31)	(78)	(71.82)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.723	0.225	(0.5262)	(0.7725)	(0.7677)	
シノキノウテイカ	80	0.764	0.214		1.116	0.610	0.603
1 (1.0 - 1.0)	32	0.747	0.222	(31, 47)	(78)	(64.29)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.776	0.210	(0.7218)	(0.5436)	(0.5484)	
C/S	80	0.923	0.186		3.592	1.372	1.539
1 (1.0 - 1.0)	32	0.958	0.116	(47, 31)	(78)	(75.95)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.900	0.219	(0.0003)	(0.1740)	(0.1281)	
タウンシヨウ	78	0.734	0.256		1.167	1.324	1.343
1 (1.0 - 1.0)	32	0.688	0.243	(45, 31)	(76)	(70.47)	
2 (4.0 - 4.0)	46	0.766	0.263	(0.6585)	(0.1895)	(0.1837)	
シンシヨウツヅハハ	79	0.565	0.251		1.031	0.376	0.375
1 (1.0 - 1.0)	32	0.578	0.255	(31, 46)	(77)	(66.38)	
2 (4.0 - 4.0)	47	0.556	0.251	(0.9099)	(0.7080)	(0.7090)	

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を 2 倍）

群変数名：シヨクキョウ

変数名 群 (群変数の値)	標本数	平均値	不 標 準 偏 差	偏 差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検 定
リュウサン	71	0.751	0.210		1.862	1.632	1.818
1 (3.0 - 3.0)	23	0.809	0.165	(47, 22)	(69)	(57.71)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.723	0.225	(0.1157)	(0.1072)	(0.0743)	
シンキノウテイカ	71	0.782	0.194		1.754	0.318	0.350
1 (3.0 - 3.0)	23	0.792	0.159	(47, 22)	(69)	(56.29)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.776	0.210	(0.1544)	(0.7517)	(0.7273)	
C/S	71	0.918	0.191		4.212	1.172	1.465
1 (3.0 - 3.0)	23	0.957	0.107	(47, 22)	(69)	(69.91)	
2 (4.0 - 4.0)	48	0.900	0.219	(0.0006)	(0.2453)	(0.1476)	
ダウシヨウ	69	0.785	0.225		5.495	0.996	1.263
1 (3.0 - 3.0)	23	0.823	0.112	(45, 22)	(67)	(67.02)	
2 (4.0 - 4.0)	46	0.766	0.263	(0.0001)	(0.3229)	(0.2110)	
シンシヨウシ ^ハ ハ	70	0.575	0.267		1.432	0.832	0.782
1 (3.0 - 3.0)	23	0.613	0.300	(22, 46)	(68)	(37.55)	
2 (4.0 - 4.0)	47	0.556	0.251	(0.3015)	(0.4085)	(0.4393)	

[母平均値の差の検定]

() 内：上段は自由度、下段は有意確率（等分散の検定では数値を2倍）

群変数名：Age 年齢（歳）

変数名 群（群変数の値）	標本数	平均値	不 標準	偏 偏差	等分散 の検定	等分散 の場合	Welch の 検 定
リュウザン	95	0.729	0.216		1.031	0.791	0.789
1 (20.0 - 29.0)	55	0.744	0.215	(39, 54)	(93)	(85.01)	
2 (30.0 - 39.0)	40	0.709	0.219	(0.9060)	(0.4309)	(0.4322)	
シノキノウテイカ	95	0.765	0.209		1.028	0.486	0.485
1 (20.0 - 29.0)	55	0.773	0.209	(39, 54)	(93)	(85.07)	
2 (30.0 - 39.0)	40	0.752	0.212	(0.9133)	(0.6284)	(0.6293)	
C/S	95	0.931	0.170		5.072	1.531	1.705
1 (20.0 - 29.0)	55	0.909	0.207	(54, 39)	(93)	(79.37)	
2 (30.0 - 39.0)	40	0.963	0.092	(0.0000)	(0.1291)	(0.0921)	
タウソウショウ	93	0.745	0.251		1.089	1.620	1.610
1 (20.0 - 29.0)	53	0.781	0.245	(39, 52)	(91)	(83.71)	
2 (30.0 - 39.0)	40	0.697	0.255	(0.7647)	(0.1087)	(0.1112)	
シンショウシハ	94	0.555	0.249		1.194	0.114	0.113
1 (20.0 - 29.0)	54	0.553	0.241	(39, 53)	(92)	(81.38)	
2 (30.0 - 39.0)	40	0.559	0.263	(0.5421)	(0.9093)	(0.9106)	

[相関係数行列]

制御変数名 タイショウケン	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.330	0.261	0.330	0.139
シンキノウテイカ	0.330	1.000	0.226	0.417	0.047
C/S	0.261	0.226	1.000	-0.010	-0.047
ダウンショウ	0.330	0.417	-0.010	1.000	0.261
シンショウシハ	0.139	0.047	-0.047	0.261	1.000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウンショウ		5) シンショウシハ	

[無相関の検定]

制御変数名 タイショウケン	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (43)	2.293 (43)	1.773 (43)	2.294 (43)	0.923 (43)
シンキノウテイカ	1.0000	0.0268	0.0833	0.0267	0.3613
C/S	2.293 (43)	0.000 (43)	1.522 (43)	3.009 (43)	0.312 (43)
ダウンショウ	0.0268	1.0000	0.1354	0.0044	0.7568
シンショウシハ	1.773 (43)	1.522 (43)	0.000 (43)	0.065 (43)	0.312 (43)
	0.0833	0.1354	1.0000	0.9481	0.7568
	2.294 (43)	3.009 (43)	0.065 (43)	0.000 (43)	1.771 (43)
	0.0267	0.0044	0.9481	1.0000	0.0836
	0.923 (43)	0.312 (43)	0.312 (43)	1.771 (43)	0.000 (43)
	0.3613	0.7568	0.7568	0.0836	1.0000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウンショウ		5) シンショウシハ	

[相関係数行列]

制御変数名 タイショウケン	選択範囲 (3.000 - 3.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.277	0.088	0.333	0.083
シンキノウテイカ	0.277	1.000	0.253	0.516	0.162
C/S	0.088	0.253	1.000	0.105	-0.162
ダウショウ	0.333	0.516	0.105	1.000	0.150
シンショウジハハ	0.083	0.162	-0.162	0.150	1.000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウショウ		5) シンショウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 タイショウケン	選択範囲 (3.000 - 3.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (46)	1.954 (46)	0.602 (46)	2.340 (44)	0.559 (45)
シンキノウテイカ	1.0000 (46)	0.0568 (46)	0.5501 (46)	0.0239 (44)	0.5790 (45)
C/S	0.0568 (46)	1.0000 (46)	0.0831 (46)	0.0002 (44)	0.2760 (45)
ダウショウ	0.5501 (44)	0.0831 (44)	1.0000 (44)	0.4857 (44)	0.2762 (44)
シンショウジハハ	0.0239 (45)	0.0002 (45)	0.4857 (45)	1.0000 (44)	0.3206 (45)
	0.5790	0.2760	0.2762	0.3206	1.0000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウショウ		5) シンショウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 Age	選択範囲 (20.000 - 29.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウザン	1.000	0.302	0.114	0.374	0.159
シンキノウテイカ	0.302	1.000	0.230	0.504	0.135
C/S	0.114	0.230	1.000	0.113	-0.179
タウンショウ	0.374	0.504	0.113	1.000	0.133
シンショウジハハ	0.159	0.135	-0.179	0.133	1.000

変数名	1) リュウザン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 Age	選択範囲 (20.000 - 29.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウザン	0.000 (53)	2.309 (53)	0.835 (53)	2.879 (51)	1.165 (52)
シンキノウテイカ	1.0000	0.0249 (53)	0.4077 (53)	0.0058 (51)	0.2495 (52)
C/S	0.0249	1.0000	0.0912 (53)	0.0001 (51)	0.3302 (52)
タウンショウ	0.835 (53)	1.721 (53)	0.000 (53)	0.811 (51)	1.310 (52)
シンショウジハハ	0.4077 (51)	0.0912 (51)	1.0000 (51)	0.4211 (51)	0.1960 (51)
	0.0058 (52)	0.0001 (52)	0.4211 (52)	1.0000 (51)	0.3426 (52)
	1.165 (52)	0.983 (52)	1.310 (52)	0.958 (51)	0.000 (52)
	0.2495	0.3302	0.1960	0.3426	1.0000

変数名	1) リュウザン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 Age	選択範囲 (30.000 - 39.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.226	0.245	0.270	0.133
ジノキノウテイカ	0.226	1.000	0.093	0.360	0.070
C/S	0.245	0.093	1.000	-0.093	0.146
ダウシヨウ	0.270	0.360	-0.093	1.000	0.375
シンシヨウジハハ	0.133	0.070	0.146	0.375	1.000

変数名	1) リュウサン	2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウシヨウ		5) シンシヨウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 Age	選択範囲 (30.000 - 39.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (38)	1.429 (38)	1.557 (38)	1.730 (38)	0.827 (38)
ジノキノウテイカ	1.0000 (38)	0.1612 (38)	0.1278 (38)	0.0917 (38)	0.4134 (38)
C/S	0.1612 (38)	1.0000 (38)	0.5663 (38)	0.0224 (38)	0.6679 (38)
ダウシヨウ	1.557 (38)	0.579 (38)	0.000 (38)	0.575 (38)	0.913 (38)
シンシヨウジハハ	0.1278 (38)	0.5663 (38)	1.0000 (38)	0.5688 (38)	0.3671 (38)
	1.730 (38)	2.380 (38)	0.575 (38)	0.000 (38)	2.495 (38)
	0.0917 (38)	0.0224 (38)	0.5688 (38)	1.0000 (38)	0.0171 (38)
	0.827 (38)	0.432 (38)	0.913 (38)	2.495 (38)	0.000 (38)
	0.4134 (38)	0.6679 (38)	0.3671 (38)	0.0171 (38)	1.0000 (38)

変数名	1) リュウサン	2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウシヨウ		5) シンシヨウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 Age	選択範囲 (40.000 - 60.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.604	0.000	0.623	0.093
シンキノウテイカ	0.604	1.000	0.000	0.641	0.406
C/S	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ダウショウ	0.623	0.641	0.000	1.000	0.298
シンショウジ ^ハ	0.093	0.406	0.000	0.298	1.000

変数名	1)	2)	3)
1) リュウサン			
4) ダウショウ			
2) シンキノウテイカ			
5) シンショウジ ^ハ			
3) C/S			

[無相関の検定]

制御変数名 Age	選択範囲 (40.000 - 60.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (7)	2.007 (7)	0.000 (7)	2.106 (7)	0.246 (7)
シンキノウテイカ	1.0000 (7)	0.0848 (7)	1.0000 (7)	0.0733 (7)	0.8126 (7)
C/S	2.007 (7)	0.000 (7)	0.000 (7)	2.212 (7)	1.174 (7)
ダウショウ	0.0848 (7)	1.0000 (7)	1.0000 (7)	0.0626 (7)	0.2787 (7)
シンショウジ ^ハ	0.000 (7)	0.000 (7)	0.000 (7)	0.000 (7)	0.000 (7)
	1.0000 (7)	1.0000 (7)	1.0000 (7)	1.0000 (7)	1.0000 (7)
	2.106 (7)	2.212 (7)	0.000 (7)	0.000 (7)	0.825 (7)
	0.0733 (7)	0.0626 (7)	1.0000 (7)	1.0000 (7)	0.4365 (7)
	0.246 (7)	1.174 (7)	0.000 (7)	0.825 (7)	0.000 (7)
	0.8126 (7)	0.2787 (7)	1.0000 (7)	0.4365 (7)	1.0000 (7)

変数名	1)	2)	3)
1) リュウサン			
4) ダウショウ			
2) シンキノウテイカ			
5) シンショウジ ^ハ			
3) C/S			

[相関係数行列]

制御変数名 ファンペン	選択範囲 (0.000 - 0.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウザン	1.000	0.244	0.120	0.323	0.054
ジノキノウテイカ	0.244	1.000	0.212	0.484	0.119
C/S	0.120	0.212	1.000	0.097	-0.158
ダウシヨウ	0.323	0.484	0.097	1.000	0.160
シンシヨウジ ハハ	0.054	0.119	-0.158	0.160	1.000

変数名	1) リュウザン	2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウシヨウ		5) シンシヨウジ ハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 ファンペン	選択範囲 (0.000 - 0.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウザン	0.000 (57)	1.896 (57)	0.911 (57)	2.528 (55)	0.402 (56)
ジノキノウテイカ	1.0000 (57)	0.0630 (57)	0.3661 (57)	0.0144 (55)	0.6895 (56)
C/S	0.0630 (57)	1.0000 (57)	0.1064 (57)	0.0001 (55)	0.3735 (56)
ダウシヨウ	0.911 (55)	1.641 (55)	0.000 (55)	0.723 (55)	1.199 (55)
シンシヨウジ ハハ	0.3661 (55)	0.1064 (55)	1.0000 (55)	0.4728 (55)	0.2356 (55)
	2.528 (56)	4.101 (56)	0.723 (56)	0.000 (55)	1.205 (56)
	0.0144 (56)	0.0001 (56)	0.4728 (56)	1.0000 (55)	0.2333 (56)
	0.402 (56)	0.897 (56)	1.199 (56)	1.205 (55)	0.000 (56)
	0.6895 (56)	0.3735 (56)	0.2356 (56)	0.2333 (55)	1.0000 (56)

変数名	1) リュウザン	2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウシヨウ		5) シンシヨウジ ハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 ファンペン	選択範囲 (1.000 - 1.000)				
	1)	2)	3)	4)	5)
変数名					
リュウザン	1.000	0.314	0.177	0.243	0.206
シンキノウテイカ	0.314	1.000	0.259	0.488	0.193
C/S	0.177	0.259	1.000	0.037	-0.094
ダウショウ	0.243	0.488	0.037	1.000	0.326
シンショウジハ	0.206	0.193	-0.094	0.326	1.000

変数名	1) リュウザン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウショウ		5) シンショウジハ	

[無相関の検定]

制御変数名 ファンペン	選択範囲 (1.000 - 1.000)				
	{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウザン	0.000 (33)	1.901 (33)	1.034 (33)	1.441 (33)	1.208 (33)
シンキノウテイカ	1.0000 (33)	0.0661 (33)	0.3087 (33)	0.1591 (33)	0.2355 (33)
C/S	0.0661 (33)	1.0000 (33)	0.1329 (33)	0.0030 (33)	0.2659 (33)
ダウショウ	0.3087 (33)	0.1329 (33)	1.0000 (33)	0.8320 (33)	0.5930 (33)
シンショウジハ	1.441 (33)	3.208 (33)	0.214 (33)	0.000 (33)	1.984 (33)
	0.1591 (33)	0.0030 (33)	0.8320 (33)	1.0000 (33)	0.0556 (33)
	1.208 (33)	1.132 (33)	0.540 (33)	1.984 (33)	0.000 (33)
	0.2355 (33)	0.2659 (33)	0.5930 (33)	0.0556 (33)	1.0000 (33)

変数名	1) リュウザン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) ダウショウ		5) シンショウジハ	

[相関係数行列]

制御変数名 ブンベン	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.542	0.430	0.677	0.352
ジノキノウテイカ	0.542	1.000	0.255	0.274	-0.098
C/S	0.430	0.255	1.000	0.003	0.205
ダウنشヨウ	0.677	0.274	0.003	1.000	0.414
シンショウジハハ	0.352	-0.098	0.205	0.414	1.000

変数名	1)	2)	3)
1) リュウサン		2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウنشヨウ		5) シンショウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 ブンベン	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (12)	2.235 (12)	1.652 (12)	3.183 (12)	1.303 (12)
ジノキノウテイカ	1.0000	0.0452 (12)	0.1245 (12)	0.0079 (12)	0.2169 (12)
C/S	0.0452	1.0000	0.3783 (12)	0.3425 (12)	0.7381 (12)
ダウنشヨウ	1.652 (12)	0.915 (12)	0.000 (12)	0.011 (12)	0.725 (12)
シンショウジハハ	0.1245 (12)	0.3783 (12)	1.0000 (12)	0.9915 (12)	0.4824 (12)
	3.183 (12)	0.988 (12)	0.011 (12)	0.000 (12)	1.575 (12)
	0.0079 (12)	0.3425 (12)	0.9915 (12)	1.0000 (12)	0.1412 (12)
	1.303 (12)	0.342 (12)	0.725 (12)	1.575 (12)	0.000 (12)
	0.2169	0.7381	0.4824	0.1412	1.0000

変数名	1)	2)	3)
1) リュウサン		2) ジノキノウテイカ	3) C/S
4) ダウنشヨウ		5) シンショウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (1.000 - 1.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.229	0.281	0.339	0.153
シンキノウテイカ	0.229	1.000	0.302	0.340	-0.055
C/S	0.281	0.302	1.000	0.062	-0.142
タウンショウ	0.339	0.340	0.062	1.000	0.146
シンショウジハハ	0.153	-0.055	-0.142	0.146	1.000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (1.000 - 1.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (30)	1.291 (30)	1.605 (30)	1.972 (30)	0.847 (30)
シンキノウテイカ	1.0000	0.2066 (30)	0.1189 (30)	0.0579 (30)	0.4037 (30)
C/S	1.291 (30)	0.000 (30)	1.735 (30)	1.978 (30)	0.302 (30)
タウンショウ	0.2066 (30)	1.0000 (30)	0.0930 (30)	0.0572 (30)	0.7647 (30)
シンショウジハハ	1.605 (30)	1.735 (30)	0.000 (30)	0.339 (30)	0.784 (30)
	0.1189 (30)	0.0930 (30)	1.0000 (30)	0.7369 (30)	0.4390 (30)
	1.972 (30)	1.978 (30)	0.339 (30)	0.000 (30)	0.809 (30)
	0.0579 (30)	0.0572 (30)	0.7369 (30)	1.0000 (30)	0.4248 (30)
	0.847 (30)	0.302 (30)	0.784 (30)	0.809 (30)	0.000 (30)
	0.4037 (30)	0.7647 (30)	0.4390 (30)	0.4248 (30)	1.0000 (30)

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.948	0.000	0.549	0.088
シンキノウテイカ	0.948	1.000	0.000	0.760	0.341
C/S	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
タウンショウ	0.549	0.760	0.000	1.000	0.796
シンショウジハハ	0.088	0.341	0.000	0.796	1.000

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[無相関の検定]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (2.000 - 2.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (3)	5.147 (3)	0.000 (3)	1.137 (3)	0.153 (3)
シンキノウテイカ	1.0000 (3)	0.0142 (3)	1.0000 (3)	0.3383 (3)	0.8879 (3)
C/S	0.0142 (3)	1.0000 (3)	1.0000 (3)	0.1357 (3)	0.5742 (3)
タウンショウ	0.000 (3)	0.000 (3)	0.000 (3)	0.000 (3)	0.000 (3)
シンショウジハハ	1.0000 (3)	1.0000 (3)	1.0000 (3)	1.0000 (3)	1.0000 (3)
	1.137 (3)	2.027 (3)	0.000 (3)	0.000 (3)	2.281 (3)
	0.3383 (3)	0.1357 (3)	1.0000 (3)	1.0000 (3)	0.1068 (3)
	0.153 (3)	0.629 (3)	0.000 (3)	2.281 (3)	0.000 (3)
	0.8879 (3)	0.5742 (3)	1.0000 (3)	0.1068 (3)	1.0000 (3)

変数名	1) リュウサン	2) シンキノウテイカ	3) C/S
4) タウンショウ		5) シンショウジハハ	

[相関係数行列]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (3.000 - 3.000)				
	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.115	0.428	0.052	0.252
シンキノウテイカ	0.115	1.000	0.043	0.355	0.266
C/S	0.428	0.043	1.000	-0.079	0.146
ダウシヨウ	0.052	0.355	-0.079	1.000	0.546
シンシヨウジハハ	0.252	0.266	0.146	0.546	1.000

変数名	1)	2)	3)	4)	5)
1) リュウサン					
2) シンキノウテイカ					
3) C/S					
4) ダウシヨウ					
5) シンシヨウジハハ					

[無相関の検定]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (3.000 - 3.000)				
	{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (21)	0.531 (21)	2.170 (21)	0.240 (21)	1.191 (21)
シンキノウテイカ	1.0000 (21)	0.6011 (21)	0.0416 (21)	0.8124 (21)	0.2469 (21)
C/S	0.531 (21)	0.000 (21)	0.199 (21)	1.739 (21)	1.264 (21)
ダウシヨウ	0.6011 (21)	1.0000 (21)	0.8442 (21)	0.0968 (21)	0.2200 (21)
シンシヨウジハハ	2.170 (21)	0.199 (21)	0.000 (21)	0.365 (21)	0.676 (21)
	0.0416 (21)	0.8442 (21)	1.0000 (21)	0.7186 (21)	0.5063 (21)
	0.240 (21)	1.739 (21)	0.365 (21)	0.000 (21)	2.990 (21)
	0.8124 (21)	0.0968 (21)	0.7186 (21)	1.0000 (21)	0.0070 (21)
	1.191 (21)	1.264 (21)	0.676 (21)	2.990 (21)	0.000 (21)
	0.2469 (21)	0.2200 (21)	0.5063 (21)	0.0070 (21)	1.0000 (21)

変数名	1)	2)	3)	4)	5)
1) リュウサン					
2) シンキノウテイカ					
3) C/S					
4) ダウシヨウ					
5) シンシヨウジハハ					

[相関係数行列]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (4.000 - 4.000)				
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	1.000	0.277	0.088	0.333	0.083
ジノキノウテイカ	0.277	1.000	0.253	0.516	0.162
C/S	0.088	0.253	1.000	0.105	-0.162
ダウシヨウ	0.333	0.516	0.105	1.000	0.150
シンシヨウジハハ	0.083	0.162	-0.162	0.150	1.000

変数名	1)	2)	3)	4)	5)
1) リュウサン					
4) ダウシヨウ					
		2) ジノキノウテイカ			
		5) シンシヨウジハハ			
					3) C/S

[無相関の検定]

制御変数名 シヨクキョウ	選択範囲 (4.000 - 4.000)				
{ t 値 / (自由度) / 有意確率 }					
変数名	1)	2)	3)	4)	5)
リュウサン	0.000 (46)	1.954 (46)	0.602 (46)	2.340 (44)	0.559 (45)
ジノキノウテイカ	1.0000 (46)	0.0568 (46)	0.5501 (46)	0.0239 (44)	0.5790 (45)
C/S	0.0568 (46)	1.0000 (46)	0.0831 (46)	0.0002 (44)	0.2760 (45)
ダウシヨウ	0.602 (46)	1.772 (46)	0.000 (46)	0.703 (44)	1.102 (45)
シンシヨウジハハ	0.5501 (45)	0.0831 (45)	1.0000 (45)	0.4857 (44)	0.2762 (45)
	2.340 (44)	3.994 (44)	0.703 (44)	0.000 (44)	1.005 (44)
	0.0239 (45)	0.0002 (45)	0.4857 (45)	1.0000 (44)	0.3206 (45)
	0.559 (45)	1.103 (45)	1.102 (45)	1.005 (44)	0.000 (45)
	0.5790 (45)	0.2760 (45)	0.2762 (45)	0.3206 (44)	1.0000 (45)

変数名	1)	2)	3)	4)	5)
1) リュウサン					
4) ダウシヨウ					
		2) ジノキノウテイカ			
		5) シンシヨウジハハ			
					3) C/S



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



[目的]

妊娠および分娩の経過中にはさまざまな合併症が出現し、最終的には一部の妊娠で母体あるいは子供の後遺症が発生する。産科臨床の中での確な判断を行い、患者の満足感を増加させるためには、単に合併症およびその後遺症の発生の危険率を推定するだけでなく、各々の合併症の結果つまり後遺症を患者の立場に立って評価しておくことが重要である。効用値とは、患者の主観的な価値観すなわち好みに基づいて、疾患の結果として生じた健康障害の程度を数値で評価したものであり、基準として健康を1、死亡を0と定義する。本研究では産科臨床における判断に際して、患者側の満足度を改善することを目的として、妊娠・分娩に関する効用値の測定を試みた。なお妊娠に関する効用値測定上の問題点、注意すべき点に関しては、平成4年度報告書に記載した。